



未来の栄養教諭について（最近のニュースから）

中学3年生は年明けに入試も控え、保護者の皆様も進路についてさまざまなお考えをお持ちかと思っています。今回は、栄養教諭の立場から少し先の進路について一緒に考えてみたいと思います。

最近、私がニュースで注目しているのは「女子大学の共学化」です。これは、管理栄養士の養成や栄養教諭の資格が取得できる大学や短大の中には女子大学が比較的多いことが背景にあります。私自身も高校生の頃、受験できる大学を探すのに苦労した経験があります。現在、栄養教諭の資格が取れる大学・短大は全国で184学科あり、そのうち女子大学・女子短大は62学科（約3分の1）を占めています。

また、少子化の影響も大きくなっています。たとえば、現在20歳の方が生まれた2005年の出生数は、106～107万人でしたが、その20年前は約120万人、そして2024年には69万人弱まで減少しています。男女比がほぼ半分と考えると、女子大学を受験できる生徒も減少し、受験生を確保するために女子大学が共学化に踏み切るケースが増えているようです。

ここで少し話がそれますが、「ジェンダーバイアス」という言葉をご存知でしょうか。これは男女の役割に対する固定的な観念を指します。栄養教諭を例にすると、栄養士は女性が多いというイメージが強いため、職業のイラストも女性が描かれていることが多いです。実際、過去の給食試食会で、「加藤先生は男性の先生だったのですね。」と驚かれたこともありました。ちなみに日本のジェンダーギャップ指数は148ヶ国中118位と、世界的にも下位に位置しています。

今後、女子大学の共学化が進むことで、栄養に関する仕事のイメージも変わっていくのではないかと思います。今の中学生の皆さんが社会で活躍する頃には、ジェンダーギャップもさらに解消されていることを願っています。

(教育業界では小学校1年生の担任は女性というイメージが長らくありましたが、最近は男性の教員も増えてきました。今年、小学1年生となった我が子の学校も3クラス中2名が男性教員でした。)

GAP!



共食(きょうしょく)で心を豊かに!

誰かと食事を共にする(共有する)ことを「共食」といいます。家族との共食は、コミュニケーションを図りながら楽しく食べることができ、お互いの心や体の調子を知ることができるといったよさがあります。楽しい食事の時間は、子どもたちの心の安定につながり、健やかな成長のためにも大切なものです。

年末年始は、家族や親せきが集まって食卓を囲む機会も多いことと思います。年末年始ならではの料理を味わうこともあるでしょう。行事食の由来や地域の郷土料理、そしてそれぞれのご家庭で受け継がれてきた味などについても、この機会に語り合ってみてはいかがでしょうか。

12月は1年のうちで昼が最も短くなる日である「冬至」があります。かぼちゃを食べたり、ゆず湯に入ったりする習慣があります。

